



「2013年春季 JNN 社長会」で 石原社長が基調報告

3月21日(木)、ホテルオークラ東京において「2013年春季 JNN 社長会」が開催され、石原社長が基調報告を行いました。概要は以下の通りです。

【番組関連】

『とんび』も大変良い結果を出してくれたし、WBCも大いに健闘してくれた。レギュラー番組も、曜日によってデコボコはあるものの、日によってはトップを取る日も出てきており、明るい兆しが出てきていると思う。4月改編の目玉としては、『テレビ未来遺産』と題したノンフィクション系の大型・単発番組がスタートする。番組のコンセプトは「日本の未来に対してメッセージ性があり」、「家族が一緒に観て、一緒に考える内容」というもので、既にJNN各社から多くの企画をいただいております、共に頑張っていきたいと思う。

今年のテレビ広告費は震災の反動で2年ぶりに前年を上回ったが、少子高齢化や企業の海外転出、そして様々なデバイスの出現など、私共の業界を取り巻く環境を考えると、今後はかつてのような右肩上がりの成長は期待できないということは、はっきりしている。そうした中で、厳しい系列間競争を勝ち抜かねばならないが、JNN各社には、コンテンツの強化が最大の課題なのでよろしく支援をお願いしたい。

【電波行政関連】

ラジオのV-Low問題については、本日民放連の理事会で「全事業者がまとまってV-Lowマルチメディア放送に参入することは断念する」という方針が了承された。今後は、AMからFMに進出してサイマル放送を行う会社、V-Lowマルチメディア放送への移行を目指す会社、AMのまま、あるいはFMのまま行くという会社の3つに色分けされていくと思う。JNNの各社には、TBSラジオから適宜情報提供を行っていききたい。

4K、8Kは、テレビ局にとっては設備投資等、新たな負担につながる話でもあり、NHK、政府の動向、対応機器の普及時期などを見極めつつ、慎重に対応していきたい。

今年は、3年に一度の電波利用料改定の年にあたり、各事業者の負担割合の検討を行うが、民放連の中に対策会議が出来ている。電波料の特定係数が維持されるよう国民の理解を得ていきたい。

【新体制】

先週、当社の4月からの新しい役員体制を発表した。取締役の中には、経験したことがない新しい部門を担当する役員もいるが、これは、新鮮な目で現場を見てもらい、新しい発想で、時代の変化に対応すべく、改革すべきところは積極的に変えていってほしいということと、これまで以上に視野を広げて、経営全般について、より活発な意見や提言をしてほしいという期待を込めて行ったものだ。

最後に、東日本大震災から3年目を迎え、東北の各局の皆さまのご苦労、ご努力に改めて、ここで敬意を表したい。また、先日の震災特番や震災企画では、系列各局に多大なご協力をいただいた。おかげでJNNの底力を示す見ごたえのある内容になったと思っている。改めてご協力に感謝申し上げます。

以上